

令和7年度 大分県高等学校新人登山競技大会【縦走】 予報1号

1 大会山域の歴史と自然、文化

■大会山域の自然

阿蘇くじゅう国立公園は、昭和9 (1934) 年に制定された。大分県と熊本県にまたがる、総面積 76,289ha に及ぶ広大な自然公園である。公園南部は阿蘇山周辺とその外輪山、中部は九重連山、北部は鶴見岳、由布岳である。

この一帯の火山は、およそ30万年前から活動をはじめ、現在も活動している。「別府一島原地溝」の中に位置し、同じ地質構造の上に成立する火山群である。ただし、成立過程は異なり、阿蘇山周辺が成層火山であるのに対して、九重連山や由布・鶴見山群はトロイデ式の溶岩円頂丘や溶岩重複火山である。由布岳は、角閃安山岩からなるトロイデ火山で、噴火したのは約2,200年前とされているが、山麓には由布院温泉をはじめとした温泉群が点在しており、活火山であることを思わせる。

由布岳の北側には日出生断層帯、南西側には万年山一崩平山断層帯が走っている。2016年4月に熊本地震が発生し、大分県でも大きな揺れが続いた。由布岳でも崩落や地面の亀裂などが見つかり、しばらく入山禁止となったが、同年8月に解除されている。

周囲の高原では、長年、牛や馬の放牧に適した環境となるように、人の手による野焼きが行われてきた。野焼きは害虫などを駆除し、灌木などの繁茂を防ぎ、新たな牧草が育つようにするための工夫である。しかし、昔は農機具の代わりとして重宝されていた牛馬も、農機具の発達により必要性が薄れ、山の斜面を活用した放牧も行われなくなってきたことから、人手不足、資金不足のなかで、危険を伴う野焼きが本当に必要なのかという議論も巻き起こった。それでも、由布院の自然景観や植生を県民の財産として保全していこうと、保存会などを中心に、現在も野焼きを継続し、継承していく努力が続けられている。

■由布岳の特徴

今回の大会の舞台となる由布岳は、標高 1,583.1mの活火山で、日本二百名山に選ばれ ている。東峰と西峰の2つのピークからなる 双耳峰だが、西峰の方がやや高い。きれいな 円錐形をした独立峰であり、その秀麗な山容 から豊後富士と呼ばれ、由布院のシンボルと して人気が高い。四季折々の自然が楽しめ、特 に春の野焼き後の新緑、6月上旬のミヤマキ リシマ、秋の紅葉、冬の霧氷は見ごたえがある。 また、山頂から稀に「ブロッケン現象」を体験

できる数少ない山でもある。「ブロッケン現象」とは、太陽などの光が背後から差し込み、 影の側にある雲粒や霧粒によって光が散乱され、見る人の影の周りに、虹と似た光の輪と



なって現れる大気光学現象のことである。

由布岳には、初心者から上級者まで楽しめ る多様なルートがそろっている。体力に自信 がない場合は、まず標高 1067mの飯盛ヶ城コ ースから挑戦してみるとよいだろう。東峰ま での正面登山口ルートは初心者でも楽しめる 易しいルートである。ただし標高差は約600m あるので、基本的な体力は必要となる。西登山 口からのコースは、危険個所はないがルート が長く、標高差も約 1000mあるため、健脚向 けと言える。由布岳東登山口から東峰に突き 上げるコースは傾斜が強く、最後に 10mほど の垂直の鎖場もあって、技術力を上げるため には丁度良い。マタエから西峰、お鉢巡りコー スは、岩場と鎖場が連続するスリリングなコ ースであり、中級者がさらに技術力を上げて 北アルプスなどに挑戦する足がかりとなる。 塚原コースはアクセスが悪く、またお鉢巡り をしなければ山頂にたどり着けないこともあ り、ほとんど登山者と出会わない。そうした意 味でも、難易度は高いと言える。日向岳自然観 察路は、静かな奥深い森の中を通るコースで、 ルートファインディング能力が鍛えられる。

11 月下旬になると由布岳にも降雪が見られるようになり、1月、2月頃はしっかりとした冬山装備と冬山技術が必要になってくる。冬季にも、先に挙げたルートの難易度や特徴を参考に、自分の体力や技術力に合わせてステップアップしていくと面白いだろう。

■由布岳の名前の由来

『豊後国風土記』には「柚富峯」と表記されており、次のような記述が見られる。

【原文】

此峰頂上有石室。其深一十餘丈、高八丈四尺、 廣三丈餘。常有水凝。経夏不解。凡柚富郷近 於此峰、因以為峰名。

【書き下し文】

此の峰の頂上に石室有り。其の深さ一つに 十餘丈、高さ八丈四尺、廣さ三丈餘。常に水 凝りて有り。夏を経ても解けず。凡そ柚富郷 於いて此の峰に近く、因りて以て峰の名と 為す。

【現代語訳】

頂上には石室があって、深さ30m余り、高さ25m、幅は9m余り。常に水が凍っていて、夏を経ても溶けることがない。「柚富郷」の近くにあることから、それを峰の名前(「柚富峯」)とする。

「柚富郷」の名前の由来については、次のように記載されている。

【原文】

此郷之中栲樹多生。常取栲皮以造木綿。因曰柚富郷。

【書き下し文】

此の郷の中に構の樹多く生ふる。常に構の 皮を取りて、木綿を造る。因りて柚富の郷と 日ふ。

【現代語訳】

この村の中には、「たえのき」が多く生えている。いつも「たえのき」の皮を取って、木綿を作っている。そこで、この村のことを「ゆうのさと」と呼ぶのである。

栲(たく/たえ)とは、コウゾという樹木のことで、コウゾの皮の繊維を蒸して水にさらし、細かく割いて作った糸を木綿という。昔は木綿から布や和紙を作っていたという。ちなみに、ワタ、いわゆるコットンの木綿とは全く

別ものである。また、「柚」とは「機織りの道 具」という意味があり、「柚富」とは「機織り の道具が沢山ある」ということであろう。

このように、木綿の生産地、そして機織りの 道具がたくさんある袖富郷の近くにそびえ立っていることから、「柚富峯」と呼ぶのだとい うのである。

■万葉集に詠まれた由布岳

『万葉集』には、由布岳を題材とした和歌が 二首詠まれている。

(重要などの) (重要な

(『万葉集』巻 7-1244)

【現代語訳】

妻や子が解き放った髪を結うという、その 木綿の山に、雲よたなびかないでおくれ。我 が家の方向を見ていたいから。

「放りの髪」とは、髪を肩のあたりに垂らしたスタイルのことである。「ゆふ」には、この髪を「結ふ」と「木綿」という言葉が掛けられており、「通女らが放りの髪を」は「木綿」を導く序詞となっている。「な」は禁止を表す副詞。豊後の国から東へ旅立つ人が、妻や子どものことを思いながら、いつまでも我が家の方向を見ていたいという望郷の念を歌ったものである。

思ひ出づる時はすべなみ豊国の木綿山雪の 消ぬべく思ほゆ (『万葉集』巻 10-2341)

【現代語訳】

あなたのことを思い出すと、どうしようない気持ちになります。豊国(豊後の国)のすぐに消えてしまう木綿山の雪のように、私も消え入りそうなほど(死んでしまいそうなほど)、あなたのことを思っています。

由布岳に降った雪は、すぐに消えてしまう。 この一首は、「私もその雪のように消え入って 死んでしまいそうなほど、あなたのことを思っています」という恋心を詠んでいる。この二 首におそらくつながりはないが、併せて詠む と、一連のストーリーのようで感慨深い。

2 コース概況 太字下線は主要地点

幕営地の<u>湯布院スポーツセンター</u>からマイクロバスで移動する。数回に分けて輸送することになるため、円滑に大会が運営できるよう、朝の食事の支度、トイレ、荷物の積み下ろしなど、チームで協力して迅速に行って欲しい。

由布市役所前で下車した後、<u>由布市立由布</u>院小学校前から出発する。ここから湯布院の観光中心地である湯の坪街道を通って、由布岳西登山口まで進む。湯の坪街道には、スイーツ、グルメ、雑貨店など個性的な店が左右に軒を連ねている。早朝なのでまだオープンしていないが、旅の情緒を楽しみながら足を慣らしたい。正面に由布岳の雄姿を臨みながら歩いていると、次第に気分も高揚してくる。ただし、道路の横断、狭い道での通行には十分に注意し、マナーを守って歩いて欲しい。

湯の坪街道から県道 216 号にぶつかると、 左手にはローソン、正面にはバス専用駐車場、 右手に「由布院ユウベルホテル」の看板がある。 この県道 216 号を横断するのだが、横断歩道 がないうえに、道もゆるやかにカーブしてい るため、見通しが悪い。指示にしたがって、速 やかに横断して欲しい。



県道を渡って右手に 50mほど進むと、県道の対岸に「阿蘇くじゅう国立公園 由布岳西登山口」と書かれた大きな看板が見える。そして左手を見ると「合野越を経て由布岳山頂に至る」と書かれた白い小さな看板と登山届のポストがひっそりと立っていることに気づく。ここが由布岳西登山口である。

登山道から入ってしばらく進むと防獣ネットが張られた石垣に突き当たる。石垣に沿っ





て水路が続いているので、それを右手に進む。 大雨が降った場合、本来の水路に戻ってしまいそうな道である。その水路も10メートルほどで、樹林帯に続く笹のかぶった登山道となる。

笹薮のなかに「保安林」 と書かれたオレンジ の看板が立っている。樹林帯の登山道をゆる やかに登っていくと、550メートル地点で砂防 ダムが出てくる。砂防ダムの端の階段を登り きると広場になっており、そこを折り返すよ うに大きく右折すると、左手に登山道が続い ている。うっそうとした樹林帯の斜面をつづ ら折りに登っていく。しばらく高度を上げる と、明るい杉の木立のなかに笹の広がるなだ らかな稜線に出る。そこから神秘的な杉林の 真っすぐな一本道を過ぎると、一面に開けた 大草原に飛び出す。ここが<u>県道 216 号方面へ</u> の林道出合である。舗装された林道を右手に 下ると、県道216号に下山することができる。 一般車両は進入することはできない。今回は 左手に進もう。するとすぐに、幅の広い防火帯 が見えてくる。防火帯を登ればショートカッ



トできるが、今回は右手に見える大きな二つ の岩峰の鞍部へと向かって進もう。黒い土嚢 袋が並んだ地点から笹の草原に続く右手の登 山道に入る。すぐ横の地面は大きくえぐれて いる。浸食されやすい土壌であるようだ。左右 小ピークに鋭い岩峰がそびえている。それぞ れの岩には名前がついているらしく、フリー クライミングの対象にもなっているようだ。 岩峰の鞍部を抜けると視界がぱっと開け、や まなみハイウェイ(県道11号)が一望できる 大パノラマである。大展望を堪能しながら、笹 に覆われた、かぶりぎみの登山道をトラバー スぎみに進んでいこう。気づけば、雨も降って いないのに朝露でズボンの裾が濡れてしまっ ている。さきほどの防火帯から続くショート カット道と合流すると、右手に急峻な飯盛ヶ 城 (1067m)が否応なく目に飛び込んでくる。 その威圧感に心がくじけてしまいそうになる が、実際は飯盛ヶ城の左手を巻くように進む ため、さほど大変ではない。途中、水の流れる 小さな沢を越える。古くから利用されている 水場であるが、「飲用不可」と書かれた小さな 看板が立てられている。



さらに進むと、再び壁のような防火帯が現れる。防火帯を直登するとショートカットで

きるが、傾斜も強いので、ここは樹林帯に続く 左手の登山道を選択しよう。テープを追いか けながら進んでいくと、再び防火帯から続く 道に合流する。飯盛ヶ城の左手を巻くように しばらく進むと、「頂上、合野越え―飯盛城」 と書かれた看板がある。そこから左手の笹薮 に覆われた登山道へ入る。



山の様相がやや変わり、大きめの岩が転がった樹林帯の登山道となる。そこから数分で **合野越**に到着する。ここまではほとんど登山 者のいない静かな山歩きであったが、合野越 は正面登山口から登ってきた多くの登山者で にぎわっている。



ここからチーム行動となる。登山者が多いので道を譲り合って進もう。高度が上がるにつれて、所々、西側に展望が開け、由布院盆地が一望できる。上から見下ろす飯盛ヶ城の端整な山容が美しい。努力が報われる瞬間である。

1350m地点を過ぎると登山道の傾斜が増し、 大きな岩や石の折り重なった、段差の大きい 急登となる。マタエまでは高度差 150mほど。 ここが頑張りどころである。

マタエ直下は、落石防止のために網で岩を 覆うなど対策が取られている。それでも浮き 石が多いので注意しよう。マタエは西峰と東峰の鞍部である。風の通り道になっているため、汗がさっと乾くほど涼しい。天候によってはここから雨風が厳しくなるので、安全な場所で防寒、暴風雨対策を怠らないようにしよう。



由布岳は西峰のほうが、わずかに標高が高い。しかし、西峰は障子戸と呼ばれる鎖場があり、高度感もあって難易度が高い。お鉢巡りをする場合は、1時間程度であるが、左右に切れ落ちた岩峰を越える場所もあり、過去に滑落事故も起きているので、十分に気を付けて欲しい。今回は危険箇所のない東峰を目指す。危険箇所はないと言っても、浮き石は多く、落石には十分注意したい。また、左右のどちらを進むか迷うような踏み跡が多い。どちらを進むか迷うような踏み跡が多い。どちらを進むでも結局は合流するのだが、歩きやすさ、他の登山者との離合などを考えながら、随時判断していこう。

マタエから15分ほどで<u>由布岳東峰</u>(1580m)に到着する。ここでチーム行動は終了である。東に鶴見岳、その向こうには別府湾が広がり、北東には国東の山々、振り返って西には由布院盆地、倉木山や城ヶ岳などの山々が連なる。その向こうには九重連山も遠望できる。天候が良く、空気が澄んでいれば、福岡県の英彦山



や長崎県の雲仙普賢岳も見えることがある。 壮大な 360 度の展望に達成感もひとしおであ る。ただし、山頂は狭いので休憩場所を選ぶと ともにザックの置き場所を考え、他の登山者 の邪魔にならないように気を付けたい。

山頂の展望を満喫したら、合野越まで来た道をたどる。山頂直下から1350m地点までは、歩行技術の腕の見せ所である。「走らない、(段差を)飛ばない、足元の石や岩でバランスを崩さない」ことを意識しながら、落ち着いて行動しよう。

合野越からは正面登山口の方向に向かって進む。いったん尾根から谷へ降り、谷沿いの斜面をトラバースしながら降っていく。支尾根を巻き、再び倒木で荒れた谷沿いを進んでいく。なだらかで広い稜線に出ると、ゴツゴツとした石の転がる登山道を左右に蛇行しながら下っていく。近年、山に慣れていない方や外国人の方の道迷いが多くなってきているらしく、遭難対策協議会の方々が登山道から外れないようにロープを張ってくれている。このロープについて、美しい景観を損なうので取り払って欲しいという意見もあるようだが、安全性を考えれば致し方ないといったところであろう。

トイレの小屋や青いベンチが見えてきたら、ここが<u>日向岳自然観察路分岐</u>である。このトイレは老朽化により閉鎖されている。トイレを使用したい場合は、正面登山口まで15分ほど下らなければならない。

日向岳自然観察路は、それまでの風景とは一変する。賑やかだった正面登山口ルートから外れて、原生林の散策となる。散策といっても、由布岳と日向越までは200mほどのゆるやかな登りが続く。苔むした岩々を縫うように、目印のテープやマーカーを探しながら進むの



だが、ややわかりづらいので、焦らずにゆっくり進もう。秋は登山道に落ち葉が敷き詰められて、通常以上に登山道がわかりづらくなる。 道迷いには十分に注意して欲しい。疲労で集中力が切れてしまわないように、体力をしっかりと付けておきたい。

由布岳の裾野の森は奥深い。紅葉の時季に なると、広葉樹が鮮やかに色づく。森には木漏 れ日が差し、落ち葉を踏む音、感触が心地良い。 もののけの森に迷い込んでしまったかのよう な静けさのなかに、キューンという甲高い鹿 の鳴き声が響き渡る。この場所には鹿が多く 生息している。歩きながら何度も鹿を目にす ることになるだろう。鹿は好奇心旺盛で、あま り逃げずにじっとこちらを見つめてくる。脅 かしたりせず、森に入らせてもらっていると いう謙虚な心持ちでいよう。また、秋には危険 なオオスズメバチの活動も盛んになる。撃退 スプレーやポイズンリムーバーなども携帯し ておく方がよいだろう。もし運悪く刺されて しまった場合は、アナフィラキシーショック に注意しながら、一刻も早く下山し、病院に搬 送する必要がある。

日向越に到着したら、方向をしっかり確認 しよう。北に進むと東登山道コースを通って 由布岳山頂、南に進むと日向岳、東に進むと由 布岳東登山口に至る。



由布岳東登山口へ向かう道は、出だしから なだらかな広い稜線となっており、方角を間 違えそうになる。目印のテープを探して、方角 を定めながら確実に歩を進めたい。

登山道の左右には、木の名前が書かれた看板が付けられている。ブナやコナラ、リョウブ、クロキ、アセビなど、時間があれば木々の特徴を観察しながら歩くと、より楽しいだろう。しばらく歩くと、由布岳東登山口である。登山ポ



ストが設置してある。駐車場はないが、道路の 路肩に数台、車を駐車することができる。ここ で登山行動は終了である。マイクロバスで幕 営地の**湯布院スポーツセンター**まで戻ろう。

4 大会山域の主な地名

- ・湯布院スポーツセンター
- · 由布市立由布院小学校前
- ・由布岳西登山口(ゆふだけにしとざんぐち)
- ・県道 216 号方面への林道出合
- ・合野越 (ごうやごし/ごうやごえ)
- ・飯盛ヶ城(いもりがじょう/いいもりがじょう)
- ・マタエ
- ・由布岳東峰(ゆふだけとうほう)
- ・日向岳自然観察路分岐(ひゅうがだけしぜん かんさつろぶんき)
- ・日向越(ひゅうがごし/ひゅうがごえ)
- ・由布岳東登山口(ゆふだけひがしとざんぐち)

令和7年度 大分県高等学校新人大会【登山縱走競技】予報2号

1. 日程・コース

10月25日(土)開会式・各種審査

貸し切りバス 竹田高校 09:00 発 ⇒ 大分工業高校 10:00 発 ⇒ 明豊高校 11:00 発

- 12:00 湯布院スポーツセンター 着 ※選手は体育館等で昼食・休憩
- 12:30 監督会議・審判会議 (本館2階-食堂) ※監督は会議の決定事項について必ず選手に伝えること
- 13:30 開会式 (体育館または本館1階大研修室)
- 14:00 ペーパーテスト (本館2階-食堂)・天気図審査 (本館1階大研修室)
- 15:00 装備審査(体育館または本館1階大研修室)
- 16:00 設営審査 (選手幕営地:グラウンド (予定))
- 17:30 炊事審査

21:00 就寝

※マイクロバス納車(木村・坂本)

10月26日(日)登山行動日

- 04:00 起床・朝食・準備・撤収審査
- 06:00 審判出発 公用車①:木村車・・・6名 公用車②:岡車・・・登山隊長・救護隊役員・・・5名
- 06:00 湯布院スポーツセンター駐車場 集合完了 ·・・ ※ D隊サブ行動
 - 06:05 湯布院スポーツセンター 発 移動(マイクロバスによりピストン輸送)
 - 06:05 第1 便発: A 隊・ C 隊・ A/C 隊 CL・SL・ 支援隊役員
 - ・・・21 名 (選手 16 名・役員 5 名)
 - 06:20 第1便着:由布市役所湯布院出張所前 (到着後、トイレ等準備)
 - 06:35 第2 便発: B隊・D隊・B/C 隊 CL·SL・支援隊員 (大工OB)
 - ···22 名 (選手 15 名・役員 7 名)
 - 06:50 第2便着:由布市役所湯布院出張所前 (到着後、トイレ等準備)
- 07:00 由布市立由布院小学校正門前 登山行動開始 ※隊行動
- 07:25 由布岳西登山口
- 09:00 合野越 着
- 09:15 合野越 発

A・C隊チーム行動開始

- 11:20 マタエ
- 11:35 由布岳東峰 着

|A・C隊チーム行動終了|

昼食・休憩(30分) ※ 規定時間 A隊:1時間20分 制限時間:1時間40分

C隊:1時間30分 制限時間:2時間00分

- 12:05 由布岳東峰発 ※隊行動
- 12:15 マタエ
- 13:05 合野越
- 13:30 日向岳自然観察路分岐
- 14:40 日向越

15:05 由布岳東登山口 着 登山行動終了 ・・・・審判6名(公用車①木村車)

15:20 猪瀬戸登山口 発 移動(マイクロバスによりピストン輸送)

15:20 第1 便発: A隊・C隊・A・C隊 CL・SL ・・・18 名 (選手 16 名・役員 2 名)

15:40 第1便着:湯布院スポーツセンター

16:00 入浴 (竹田A・明豊A・竹田C)

16:20 第2 便発: B隊・D隊・B·D隊 CL·SL・支援隊 ・・・25 名 (選手 15 名・役員 10 名)

登山隊長・救護隊役員 ・・・ 5 名 (公用車2)岡車)

16:40 第2便着:湯布院スポーツセンター 全隊・行動隊役員 到着完了

17:00 入浴 (大分工業A・B、明豊D・竹田D)

※マイクロバス返却(木村・坂本)

18:00 設営審査 ※ 審査の実施は審判団の判断に委ねる

18:30 炊事審査・夕食 ※ 審査の実施は審判団の判断に委ねる

21:00 就寝

10月27日(月)閉会式・表彰式

06:00 起床・朝食

09:00 講演会:「赤嶺和樹追悼展について」 講師:大津 春輝 (本館1階大研修室)

※ 講演会終了後、交流会を実施(予定)

10:30 講評・閉会式(成績発表・表彰式) (本館1階大研修室)

11:00 解散

11:00 湯布院スポーツセンター 発

貸し切りバス 明豊高校 12:00 → 大分工業高校 13:00 → 竹田高校 14:00

2. 医療機関・警察・消防

	施設名	所在地	電話番号
医療機関 (休日当番医)	ひろたクリニック	由布市挾間町北方 5 7	097-583-5777
	別府市医師会 地域保健センター	別府市西野口町15-33	0977-23-2279
数 索	別府警察署	別府市田の湯町13番13号	0977-21-2131
	大分南警察署湯布院交番	由布市湯布院町川上3499	0977-84-2131
消防	別府市消防本部	別府市上野口町19-27	0977-25-1122
	由布市消防本部(湯布院)	由布市湯布院町川上3066-1	0977-85-2355

3. 荒天対策

	第1日(10/25)の行動	第2日(10/26)の行動	第3日(10/27)の行動
第1日 荒天	計画通り (状況により幕営地変更)	計画通り	計画通り
第2日 荒天	_	サブザック行動 (状況によりコース変更)	計画通り
第3日 荒天	_	_	計画通り

4. 連絡事項

(1) 審査について

今大会の審査は、「登山部報第68号」に記載の全国高等学校登山大会成績評価実施要領「全国高等学校登山大会<審査基準と指導目標>」と「全国高等学校登山大会審査確認事例」、「チーム行動について」、「班離脱・隊離脱・行動離脱・棄権についての整理・確認」「登山大会服装規定」に準じて行う。

(2) 幕営及び炊事について

選手の幕営地は、屋外調理場前の広場とする。食事は各チームで準備すること。

(3) 入浴について

選手の入浴は10月26日のみとし、湯布院スポーツセンター本館1階の浴室を利用する。 ただし、指定された時間を守ること。

※ 監督・役員は、10月26日・27日、両日ともに同施設での入浴が可能である。

(4) 監督・役員の宿泊について

監督と役員は、湯布院スポーツセンター本館1階の指定された部屋に宿泊し、食事は全て設営隊から配給する。(部屋割りは後日連絡する)

(5) 携帯電話 (スマートフォン) について

「審査確認事例」のとおり、GPS機能を有する機器は、所持できないが、選手の安全を確保するために<u>チームに1台ずつ携帯電話(スマートフォン)の所持</u>を認める。ただし、受付時に封印をし、緊急時のみ連絡が取れるようにすること。

(6) 地震の際の避難経路について

地震の場合は、選手の幕営地に隣接する駐車場を避難場所とする。

(7) 監督及び役員は別途食費(1000円/日)を徴収する。